

長谷川 望牧師

*わたしはこれらのことを、あなたがたにたとえて話しました。もはやたとえて話すのではなく、はっきりと父について伝える時が来ます。

（ヨハネ16：25）「これらのこと」とは、主イエスが「訣別の説教」で話された真理すべてを表している。「その日」とは十字架と復活を示している。弟子たちは、「その日」の前に、イエスが神から来られた方であること父なる、神と一つであることを知ったという。しかし、本当にイエスが誰であるかを知るようになるのは、実際に十字架と復活を目にしてからであった。

*その日には、あなたがたはわたしの名によって求めます。あなたがたに代わってわたしが父に願う、と言うものではありません。（16：26）

主イエスが地上に居られる間は、弟子たちの願いや祈りをイエスが聞き、それを父なる神に伝えるという形であった。しかし、十字架の贖いが成就した後は、弟子たちが直接父なる神に祈ることができるようになった。それは、「イエス・キリストの名によって」できるのである。私たちの祈りはイエス・キリストの十字架のゆえに、イエス・キリストとともに、イエス・キリストの中にあって、父なる神に祈るのである。

*これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。（16：33）「世」は「神に敵対する世界」「サタンがはびこる闇の世界」「罪と悪の世界」として描かれている。その「世」に勝つとは、罪が滅ぼされ、サタンが滅ぼされることである。イエスが十字架にかかって死ぬことは一見世に負けたように思われるが、逆である。十字架は救いの手段であり、その後起こる復活によって死を超えたいのちをイエス・キリストは持っておられることが証明された。そして、そのイエス・キリストを信じる者は同じいのちにあずかることができるのである。これらのことは神がはじめから計画されていたことであって、それがすべて成就したので「勝利」なのである。恐れずに世の苦難に打ち勝とう。Victory in Christ!!